

渡辺マタニティークリニックと豊川市民病院による (セミ)オープンシステムとは

多くのお産は正常に経過して元気な赤ちゃんが生まれ、お母さんも正常に復していきますが、中にはお産の最中に急に異常な事態が発生することがあります。

また、持病があったり、妊娠経過に異常のあるハイリスク妊娠では、分娩時に危険性が増大します。

分娩を扱う診療所や病院が少なくなり、妊産婦さんにとって不安な状況となっている現在、そうしたお産は、緊急手術のできる設備があり、それぞれ専門の医師がいる病院で行うのが安全で安心です。

渡辺マタニティと市民病院によるオープンシステムとは、渡辺マタニティと市民病院とが連携して、妊婦健診は近くの渡辺マタニティで受け、分娩は市民病院で行うことにより、妊産婦さんの利便性を保ちながら、それぞれの医療機関の特性を生かした役割分担で、その機能を有効に発揮させるシステムです。



オープンシステムの具体的な内容（渡辺マタニティの医師はできるだけ分娩に立ち会います）

オープンシステム

妊婦健診は渡辺マタニティで、分娩は市民病院で行います。

- 陣痛が始まるまで渡辺マタニティで妊婦健診を行います。
- 妊娠 20 週目に市民病院で妊婦健診を行います（渡辺マタニティが紹介します）。
- 妊娠 32 週までに市民病院の両親学級（後期）を受講します（市民病院の妊婦健診のときに予約します）。

セミオープンシステム

妊婦健診は渡辺マタニティで、36 週以降の健診と分娩は市民病院で行います。（リスクがある場合にセミオープンになります）

- 渡辺マタニティで妊婦健診を行います。
- 妊娠 20 週目に市民病院で妊婦健診を行います（渡辺マタニティが紹介します）。
- 妊娠 32 週までに市民病院の両親学級（後期）を受講します（市民病院の妊婦健診のときに予約します）。

妊娠にリスクが発生したら、36 週から市民病院管理となります。

市民病院において入院し、出産します。



母子ともに 1 箇月健診は市民病院で受診します。

フォローが必要な場合、渡辺マタニティに紹介します。



©fumira

妊産婦さんにとっての (セミ)オープンシステムのメリットとデメリット

メリット

- 妊婦健診は、自宅や職場に近い渡辺マタニティで手軽に受けることができます。
- 市民病院は、緊急手術やハイリスク妊娠・分娩、早産による未熟児分娩などに産婦人科・小児科の医師が対応できます。
- 妊娠中・産後も必要があれば市民病院に受診できるので安心です。なお、夜間・休日の受診は緊急時に限ります。
- 渡辺マタニティの医師に、市民病院での分娩に立ち会ってもらうことができます。
- 里帰り分娩の方もこのシステムに登録すると、必要時は市民病院に受診することができます。



デメリット

- セミオープンシステムでは、それまでなじんだ渡辺マタニティから市民病院に管理が移るため、妊産婦さんが不安に思うことがあります。市民病院では妊娠 36 週以降の妊婦健診で妊産婦さんに不安がないよう説明を心がけています。

- 渡辺マタニティから紹介状をもらって、市民病院で分娩登録をしてください。分娩登録の時期・方法、診察の予約については、渡辺マタニティお問い合わせください。
- 市民病院に妊娠初期から通院していた方が、妊婦健診を自宅や職場に近い渡辺マタニティで受診できるよう、市民病院から紹介もできます。
- 市民病院の両親学級（後期）を必ず受講してください。
- 市民病院と渡辺マタニティは検査結果の情報を連絡しあい、検査の重複がないようにしています。胎児異常の超音波チェックなども市民病院で受診できます（要予約）。

- 夜間・休日など、渡辺マタニティの緊急連絡先をご確認ください。市民病院での診察が必要な場合は、渡辺マタニティ医師より市民病院へ連絡が届きます。
- 妊娠中に切迫早産や破水、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児発育不全などの問題が発生した場合は、渡辺マタニティの医師と相談の上、市民病院での診療に移行し、必要があれば入院加療を行います。